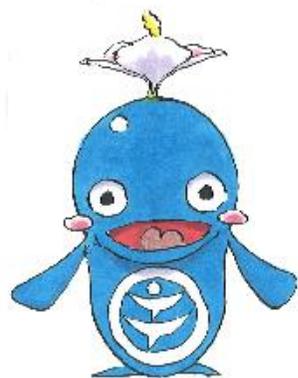


令和2年度 校内研究報告会

令和3年3月17日(水)
富屋特別支援学校



I 研究の概要

1 目的

学校教育目標にある、児童生徒の「自信と意欲を育てる」指導の充実に向け、小学部は生活単元学習、中・高等部は作業学習において授業改善を行い、単元を見通した授業の計画、実践、評価・改善に組織的に取り組む。

自信と意欲を育てる指導の大切さ

- 自信※が育ってくると、他者へのかかわりが積極的に、活動への取組が意欲的になる。
- そして、自分のできることや得意なことを自ら広げていくとともに、難しい状況においても、自分なりに工夫して対処しようとする。

※自信・**自分を信頼すること**

2 方法及び計画

- 小学部は学年ごとに、児童の実態に応じた学習グループ①、②※を構成
- 中・高等部は作業班ごとに、障害の状態等が異なる対象生徒①、②※の2名を設定
- 日常的に指導に取り組むとともに、年4回、小グループでの実践検討を行う

※学習グループ及び対象生徒

- ①一斉の指示を理解し活動できる
- ②一人一人に働きかけることで活動できる

研究計画

- **第1回（6/10）**
研究の説明と学習グループ、対象児童生徒の決定
- **第2回（6/23）**
授業改善案の検討
- **第3回（7~9月）**
実践経過の確認と後期の実践に向けた検討
- **第4回（12月）**
今年度の実践の評価
- **第5回（3/17）**
研究のまとめと共有

Ⅱ 実践報告

1 小学部

(1) 生活単元学習

(2) 今までの課題

導入の授業は、学年一斉でスライド教材を使用して行うことが多かった。



全員の理解は難しい

(3) 自信と意欲を育てる指導の工夫

「わかる」「たのしい」授業を目指し、
児童の実態に応じた学習グループを形成

- スライドグループ・・・スライドを見ながら
教師の説明を聞き、学習の見通しをもつ
- 体験グループ・・・体験的な学習をとお
して学習への理解を深める

(4) 実践の様子

○スライドグループ 6年生



○体験グループ 6年生

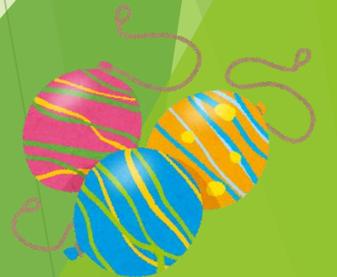


氷遊び



ヨーヨーつり

ヨーヨーつり（2回目）の様子



(5) 児童の様子

○スライドグループ

- ・ 静かな環境で、落ち着いて話を聞いた。
- ・ 友だちを見て、自分も「発言したい」「参加したい」という気持ちで盛り上がっていた。友だちを意識して、よい緊張感をもって取り組んでいた。



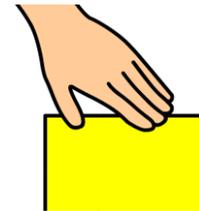
(5) 児童の様子

○体験グループ

・体験（見る・聞く・触れる）活動をする
ことで何をするかが分かり、やりたい
という意欲が見られた。



・体験的な活動を繰り返すことにより、
教材に手を伸ばすなどの自発的な動きが
見られた。



(6) 生活単元学習の導入の授業改善のポイント

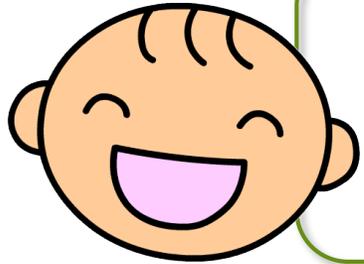
○ 児童の体験的な学習をさらに充実

○ 細やかな実態把握と実態に応じた学習グループの構成の工夫

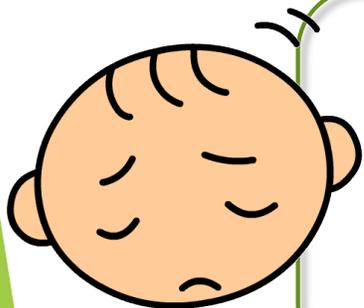
2 中学部

(1) 作業学習「リサイクル班」

(2) 6月当初の実態



作業学習が好き。
一生懸命取り組む様子が見られる。



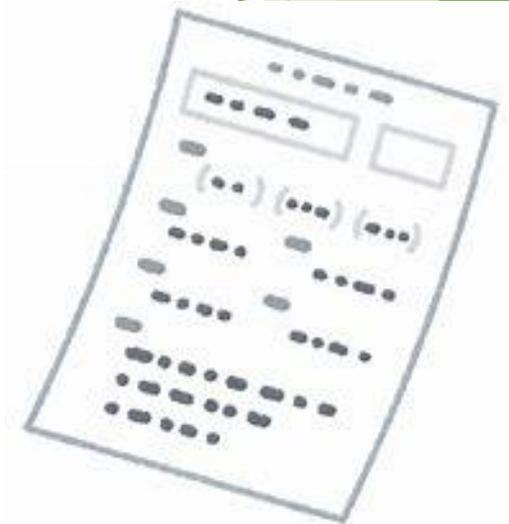
初めてのことに對して不安がある。
自分から発表をするのをためらう。
自分の課題を受け入れるのが難しい。

(3) 自信と意欲を育てる指導の工夫

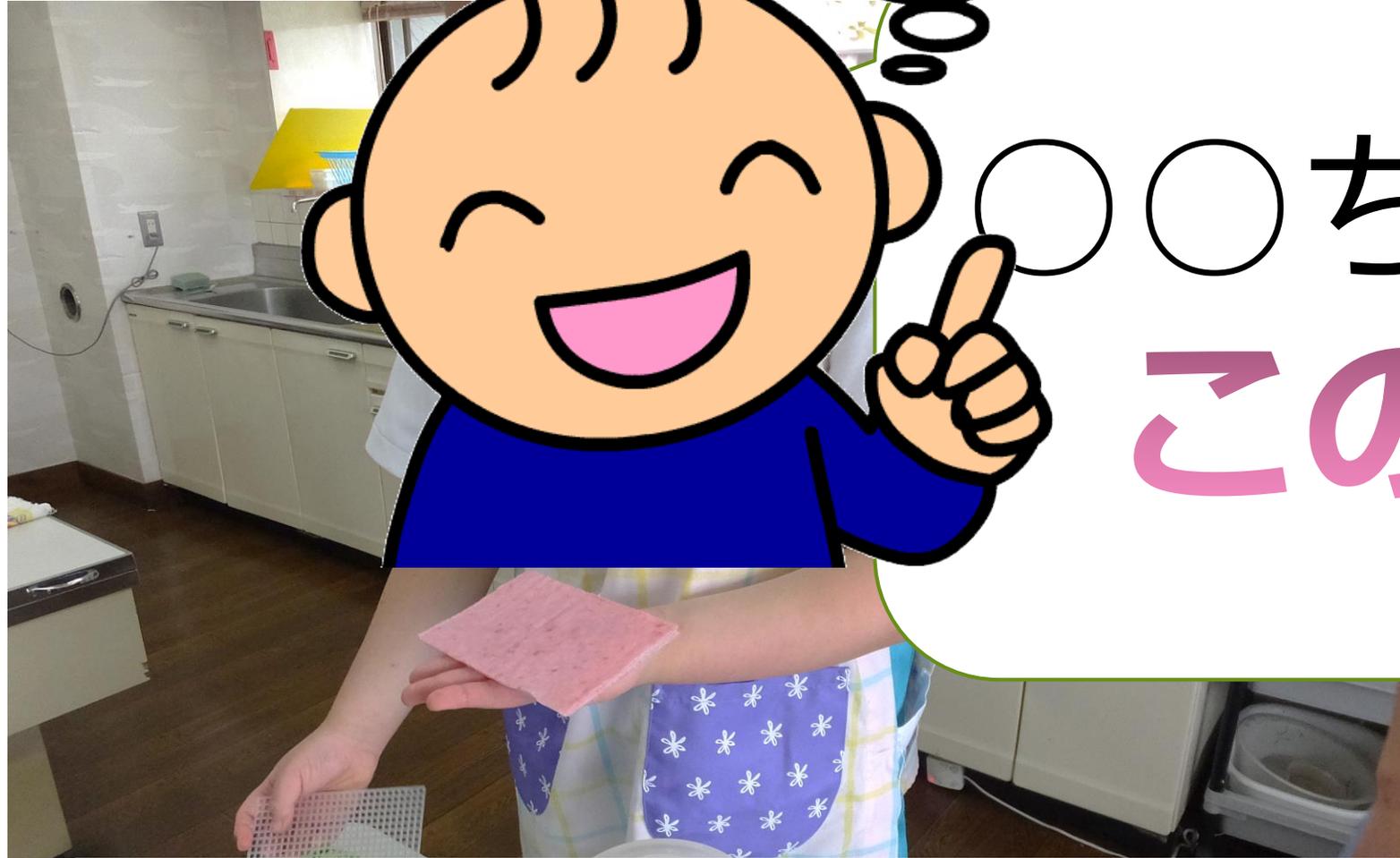
- ・ 自分でデザインを考える。



- ・ 評価シートを活用。



(4) 実践の様子



○○ちゃんは
この色！

*** 人や物から自分で色をイメージ**

リサイクル班 かみすき隊

イメージ	クール	けんきいばい	しゅもん	やさしい	スマート
いろ	あおむらさき	あか	むらさき	おれんじ	きいろ
ふりかけ	ぶつかけ (おどり)	はなびら (むらさき)	みどり (はないろ)	きいろ (ぶつかけ)	ピンク (はないろ)
かんどう	ちよあまが こよか、です	ブルーベリーを イメージ	うすみのみずいろ をイメージ	カラフルの イメージ	もものはくいろの イメージ

表を用いて、自分も友達にも分かりやすく

→イメージの共有、共感→認められるきっかけ

(4) 実践の様子 (評価シートへの活用)

リサイクル班 ふりかえりシート

月 日 曜日

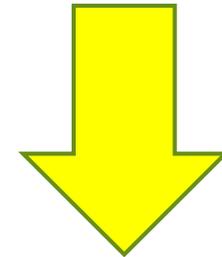
1 作業内容 ()

よくできたこと

がんばりたいこと (課題)

- * 教師との細かな振り返り。
- * 自分の活動を的確に振り返る。
- * 教師が生徒に合わせた言葉掛け
→ **認められる経験**

認められる経験



自分を肯定的に捉える
次への意欲

(5) 生徒Bの変容

- 反省会で自分から手を挙げることができるようになった。
- 自分の課題に目を向けられるようになってきた。

(6) 作業学習の授業改善のポイント

- ・ **興味関心に合わせた取り組み・言葉掛け**
- ・ **自己選択・自己決定の場**
- ・ **認められる経験**

- ・ **他者評価を受ける機会の設定**
- ・ **自分の課題に気付く力**

3 高等部

(1) 作業学習「受託加工班（シュレッダー作業）」

(2) 6月当初の実態

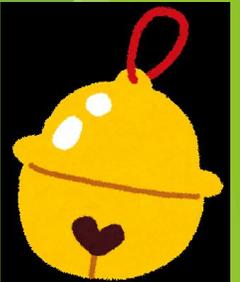
○生徒C（H・Oさん）※対象生徒②

- ・発語はないが、人とのかかわりを好む
- ・シュレッダーのかけ方を理解
- ・紙ごみを捨てる活動を好む
- ・作業中、床に座っていることが多い
- ・教師の言葉掛けが必要な場面が多い



(3) 自信と意欲を育てる指導の工夫

- ・ 教師間で指導目標の共有
〈出来高よりも、人とかがわりながら
見通しをもって活動できること〉
- ・ 自分で報告できるよう、古紙を10枚裁断したら鈴を鳴らして教師に伝え、認められる

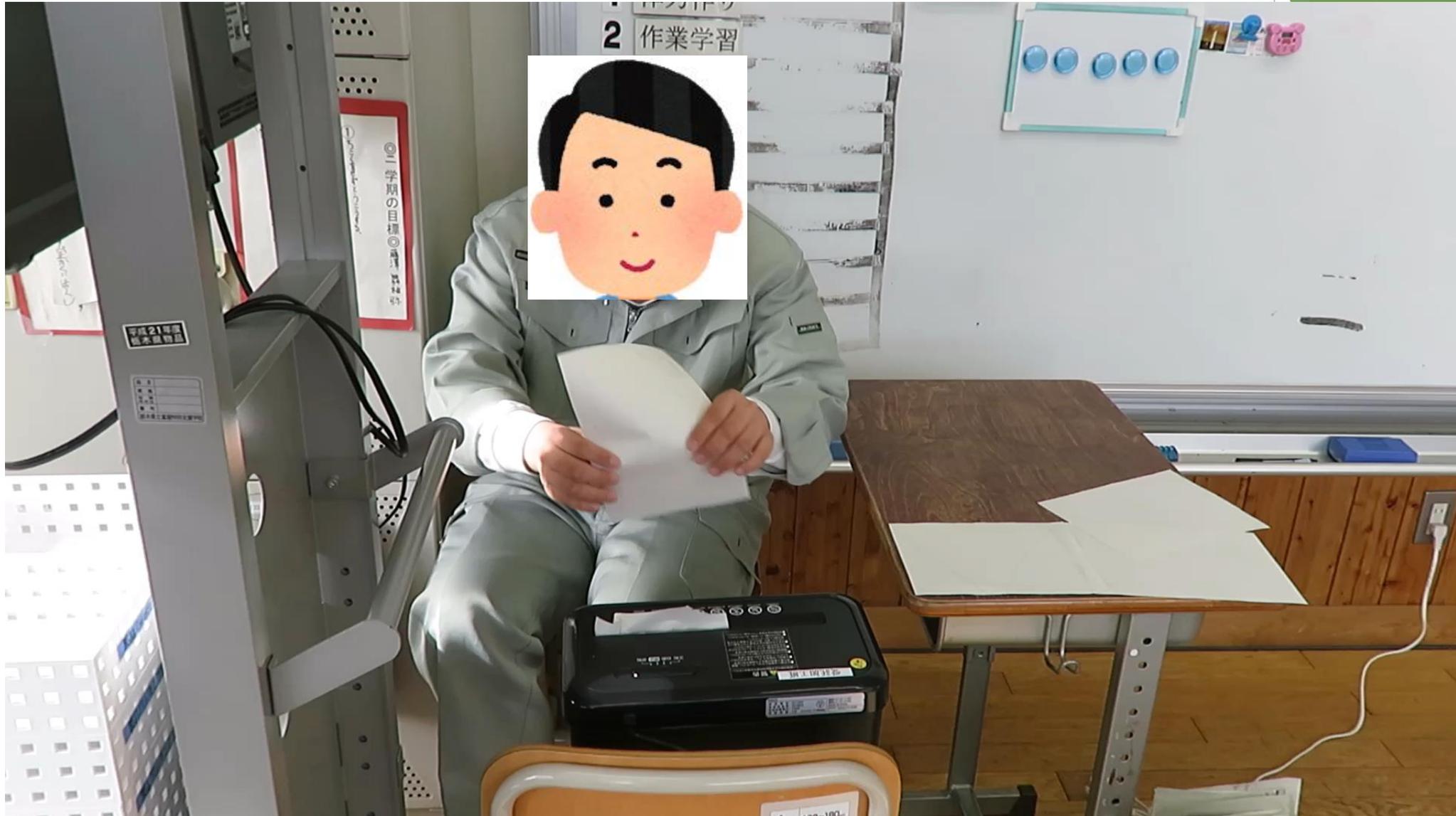


- 終わりが分かるよう、ホワイトボードの5つの磁石のうち1つを減らす。
5つ（50枚）終わったらタイマーをセットして休憩
- ごみ捨てが好きなので、再び作業を始める際は、ごみ捨てをする



(4) 実践の様子

R2年11月



意欲的にシュレッダー作業に取り組むCさん

(5) 生徒Cの変容

- ・ 見通しをもち、意欲的に作業に取り組むことができた
- ・ 教師に認められ、良い表情で取り組み、自信の高まりを感じた
- ・ 教師に視線を合わせ、終わりを確認するなど、他者とやりとりする力が付いてきた

(6) 作業学習の授業改善のポイント

- ・ 個別の指導目標を教師間で共有**
- ・ 活動の始めと終わりが分かる工夫**
- ・ 生徒のできること、得意なことを生かす**
- ・ 生徒のがんばりを認める**

Ⅲ 研究のまとめ

～チーム富屋で自信と意欲を育てる～

○実態把握

- ・主に担任、副担、指導担当者が個別の指導計画作成時に把握

児童生徒の分かること
興味・関心

○個々の指導目標、手立ての設定と共有

- ・ 担当者は、児童生徒の分かること、興味・関心を生かして、目標や手立てを設定
- ・ 生活単元学習や作業学習の指導にかかわる教師間で、個々の指導目標、手立てを一覧にし、共有

※必要に応じて学習グループを構成

○認めるかかわり

- ・ 指導にかかわる教師が、同じ方向で認める